大手前新聞　2020年(令和2年)4月1日　≪第22号≫

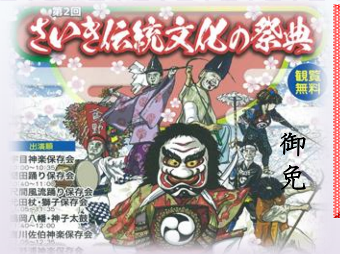
大手前新聞
創　刊
2018年(平成30年)
佐伯市役所
文化芸術交流課
☎0972-22-4623

市民の想いをかたちに

私たちの軌跡2013～2020

２０１３年10月、一度歩みを止めていた大手前開発事業は、大手前開発市民会議・高校生部会の発足により、市民の皆さまのご協力を得ながら再び動き始めました。以前のようなにぎわいを取り戻したい、これまでにない新しいまちをつくりたい、たくさんの人のたくさんの願いと共に大手前開発事業は今日まで歩みを進めてきました。

長い間、市民の皆さまが待ち望んだ大手前開発は、本年10月31日のさいき城山桜ホール開館により、事業を完了いたします。道路や広場が整備され、建物が建ち、まちの整備は完成しますが、まちが変わるのはこれからです。人が集い、賑わい、つなぎ、そして広がっていく。私たちは目指すまちづくりはここから始まります。


第2回
さいき伝統文化の祭典
観覧無料
出演順

開催中止

御免

4月5日に開催を予定していた「さいき伝統文化の祭典」は、新型コロナウイルスの感染拡大、また大分県でも感染者が確認されたことを受け、佐伯市新型コロナウイルス感染症対策本部等で協議した結果を基に、参加者及び関係者の安全を最優先に考え、中止することを決定いたしました。

◆管理運営実施計画検討会議

◆開館準備検討会議

◆さいき城山桜ホール運営委員会

◆開館プレイベント

あの空コンサート

大道芸フェスタ

まちなかユース文化祭

◆管理運営実施計画
市民ワークショップ

◆諸室ヒアリング

◆高校生部会

◆市民会議

佐伯がいちばん！

２０１３年の夏だったと思います。福岡大学にある私の研究室に佐伯市役所の方々が来られ、「白紙になった大手前の開発計画をもう一度市民と一緒に作り直したいんです」と熱く語られたのを今でも覚えています。ご存じの方も多いと思いますが、以来、私はこの大手前開発計画の計画コーディネーターを務めることになります。正直なところ、本当に大変なお仕事でした（苦笑）。

まず、初めに苦労したのは、基本計画策定に向けた市民会議の設立と運営でした。事業を作り直すと言っても、会議に参加する市民の皆さんの中には「本当に実現できるのか」「また撤回するのでは」といった疑念や不信感をお持ちの方もおられ、まずはいかにそれを払拭できるかに一生懸命だった気がします。当初は30名程を予定していた市民会議の参加者数を、応募のあった76名全員とし、市の市民参加に対する姿勢を表明することにしました。無論このことでグループごとに話し合う際の司会進行役の確保と当日の円滑な作業が課題となりました。そのため研究室のメンバーは勿論、市役所の各課を超えて若手職員にお願いし、本番さながらの予行演習を行うなど、市民会議前に司会進行役の方々だけを対象とした打ち合わせをほぼ毎回行っていました。こうした協力体制をもとに、市民会議は１年弱の間に計８回開催され、その成果は基本計画策定に向けた構想案として市長に提出されました。その後、大手前開発計画のより詳細な基本設計の段階においても、市民ヒアリングを実施しながら最終案を考え、工事も着々と進み、10月末のオープンまであと数か月となりました。

市民会議で話し合われた基本コンセプトは「いつでも気楽に集まれる憩いの場所」「多様な世代が集まれる場所」「佐伯ブランドの発信拠点」「暮らしを支える場所」「まちのストックを生かす場所」でした。このコンセプトが実現する場所になるか否かは「さいき城山桜ホール」自体の魅力や運営の仕方もさることながら、利用する市民の皆さんがいかにこの場所を活用し、使い倒していくかにかかっていると思います。多くの人達が携わった大手前の「さいき城山桜ホール」。

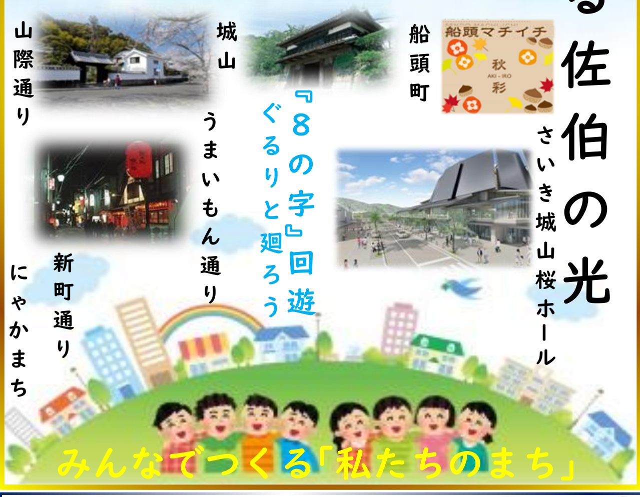
今こそ佐伯の再起動（さいきどう）を皆さんの手で。

福岡大学工学部
社会デザイン工学科
景観まちづくり研究室
教授　**柴田　久**

育み広げる佐伯の光

大手前で始め、私たちの手で育て、やがてその賑わいが周りにも広がりつながっていく。

市民会議からこれまで、そんな夢を見ながら皆さまと一緒にまちづくりを行ってきました。これからまたこのまちの未来に向けて皆さまと一緒に歩いて行けることを願っております。


船頭町
船頭マチイチ
秋彩
AKI-IRO
城山
山際通り
さいき城山桜ホール
『８の字』ぐるりと廻ろう回遊
うまいもん通り
新町通り
にゃかまち
みんなでつくる「私たちのまち」

さいき城山桜ホールの前には、緑が美しい憩いの広場を整備します。木陰での読書や仲間との語らいの場などのんびりとした日常に加え、マルシェやお祭りなどイベント会場としてもご利用いただけます。自分に合った使い方を探して有意義な時間をお過ごしください。

昼でも
私の夢
遊びゴコロ！
夜でも
僕の時間

写真はイメージです

さいき城山桜ホール

SAIKI SHIROYAMASAKURA HALL

完成予想図

大手前に、今まで佐伯には無かった新しい施設が誕生します。皆さまの見たい・やりたい・始めたいを応援します。

可能性は無限大？

さいき城山桜ホールは、多目的ホール大・小を始めスタジオや会議室、食育活動や子育て・子育ち支援室、市民団体が活動を行えるスペースなど、様々な機能を備えた複合文化交流施設です。また、館内には自由に利用できるフリースペースもあり、どなたでも気軽にご利用いただけます。

私の日、私の場所

これまで大手前開発にはたくさんの方が関わり協力してくださいました。形はそれぞれ違っても、このまちの再興を強く願う想いに後押しされてここまで進むことができました。ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。10月31日のさいき城山桜ホールのオープニングセレモニーでお会いできることを願っております。

市民の皆さまに大手前開発事業についてお伝えするため、２０１８年７月から本紙を発刊してまいりましたが、今号をもちまして終刊いたします。ご愛読くださりありがとうございました。今後は、会館だより（名称未定）を発行しホールの催しなどに関し広報していく予定です。これまでの皆さまとのご縁と、これから生まれるご縁が広がっていくことを願っています、このまちで。

【編集】
工藤　裕樹
竹中　大輔

寿屋（昭和の時代）

仲町（昭和の時代）

編集後記

子どものころ、このまちでは夏の風物詩の一つとして「土曜夜市」が行われていました。このころの子どもたちには土曜日の夜は特別で、大好きな８時からのＴＶ番組を毎週楽しみにしていました。ＴＶか、夜市か、葛藤の末選択したのは土曜夜市。ＴＶに別れを告げて、さあ、夜のまちに繰り出そう（保護者同伴）。まずは仲町から入り、人混みをかき分けながらゆっくり進んで夏の夜を満喫する。通りには自分と同じくらいの歳の子や知り合いのおじさん、あっ仲の良い友達を見つけた！夜会うとなんか嬉しい。やっぱり来てよかった。友達と別れ、歩を進めるといよいよ終わりが近づいてくる。一瞬寂しさに襲われるが、すぐに気分が上昇する。アーケードの向こうに見えるは悠然とそびえたつ寿屋。まだまだ終わらない。少年時代、夏の夜の思い出です。